

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

Durvalumab + GEM + CDDP療法

3 週毎 4コース予定

疾患名 尿路上皮癌

HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()

主治医

指導医

スケジュール

		day1	day8	day15
イミフィンジ(デュルバルマブ)	1500 mg/body	↓	休	休
シスプラチン	70 mg/m ²	↓	休	休
ゲムシタビン	1000 mg/m ²	↓	↓	休

【注意】 *術前化学療法として4コース

*術後化学療法はデュルバルマブ維持療法(4週毎)を8コース

*1日の尿量が 3000 mL以上になるように調整すること

*シスプラチンは遮光のこと

*他剤使用時はデュルバルマブ投与前に血管確保用生食にてフラッシュすること

*デュルバルマブは体重が 30 kg以下の場合、20 mg/kgとする

*デュルバルマブは 0.2又は 0.22 μmインラインフィルターを通して投与すること

☆通常量より減量する際の理由☆

(レジメン)

day1 抗がん薬投与1時間半前にアプレピタントカプセル(125 mg)1Cを内服

- | | | |
|-----------------------|---|----------------------|
| ① | 生食 500 mLにて血管確保 | 維持 (20 mL/時間) |
| ② | イミフィンジ 1500 mg + 生食 70 mL | 点滴静注 60分(100 mL/時間) |
| ◎終了後、メインの生食でルート内フラッシュ | | |
| ③ | 生食 500mL | 点滴静注 120分(250 mL/時間) |
| ④ | ソルデム3A 500 mL + 硫酸Mg補正液 4 mEq | 点滴静注 90分(333 mL/時間) |
| ⑤ | パロノセトロン 0.75 mg + デキサメタゾン 9.9 mg + 生食 20 mL | 側管静注 |
| ⑥ | ゲムシタビン + 生食 100 mL | 点滴静注 30分(200 mL/時間) |
| ⑦ | 20%マンニトール 300 mL | 点滴静注 30分(600 mL/時間) |
| ⑧ | シスプラチン + 生食 300 mL | 点滴静注 120分(250 mL/時間) |

※生食200 mLをバッグから前もって抜いておく

- ⑨ ソルデム3A 500 mL + 硫酸Mg補正液 4 mEq 点滴静注 90分(333 mL/時間)
- ⑩ 生食 500 mL 点滴静注 120分(250 mL/時間)
- ◎尿量をみて必要により補液追加
- ⑪ オランザピン 5 mg 1錠 1×タ 内服(※糖尿病患者は禁忌)

day 2 - 3 アプレピタントカプセル(80 mg) 1C 1×朝 内服

day 2 - 4 オランザピン 5 mg 1錠 1×タ 内服(※糖尿病患者は禁忌)

デキサメタゾン 4 mg 2錠 2×朝昼 内服

day8

- ① 生食 500 mLにて血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② デキサメタゾン 6.6 mg + 生食 20 mL 側管静注
- ③ ゲムシタビン + 生食 100 mL 点滴静注 30分(200 mL/時間)

	1コース			2コース		
	day1	day8	day15	day1	day8	day15
月 日	/	/	/	/	/	/
デュルバルマブ 開始時刻	↓			↓		
シスプラチン 開始時刻	↓			↓		
ゲムシタビン 開始時刻	↓	↓		↓	↓	
確認						

	3コース			4コース		
	day1	day8	day15	day1	day8	day15
月 日	/	/	/	/	/	/
デュルバルマブ 開始時刻	↓			↓		
シスプラチン 開始時刻	↓			↓		
ゲムシタビン 開始時刻	↓	↓		↓	↓	
確認						